3ZD-5

研究室における就職活動支援システムの開発

三鬼安加里　　南野謙一　　後藤裕介　　渡邊慶和
岩手県立大学ソフトウェア情報学部

1. はじめに

近年，経済状況の悪化に伴う就職難が深刻化している．このような状況をうけて多くの大学では学内就職フォーラム，学内合同企業説明会などを実施している．また本学部では，内定を取り次第，教員に報告するという形で学生の就職活動状況を管理し，活動中の学生に対して先輩の経験談や同学年の状況を伝え，指導している．しかし，教員が情報を持っていない場合には，先輩を見つけアドバイスを求めない限り，先輩の経験談を得られる機会がない．また，就職活動が活発化する2，3月は大学の春休みと重なり，就活生は個別に行動することが増え，教員や他の学生と会う機会が少なくなる．このため，対応遅れなどの問題が起こることがある．

これらの問題を解決するため，本研究では研究室における学生間の情報共有に重点を置いた就職活動支援システムを提案する．これにより，就職活動の全体のスケジュールの認知，就職活動情報の把握を行わせ，適切なスタートおよび円滑な就職活動を促す．

2. 就職活動における学生間の情報共有

本研究では，内定を得た先輩の経験談および友人の状況を就職活動上の重要な情報と捉える．内定するまでにどのような段階を踏んだのかを身近な先輩から聞く事で就職活動の重要点を押さえることができ，その上，モチベーションの向上にもつながる．図1のように就職活動を個人で行っている場合には様々な問題がある．例えば，リクナビなどの就職支援サイトや大学教員からの情報収集のみで先輩からの情報，友人からの情報などを得られず就職活動の重要点が分からない，周囲の就職活動状況を知らずモチベーションが低下してしまう．その結果，スタート時期が遅れるなどの問題がある．

これを解決するために情報共有を研究室単位で行うことを提案する．本学部の研究室は1年次から所属することができ縦のつながりが強い．そのため研究室の学生間で就職活動情報についての共有を行うことが可能である．図2に示すように研究室単位で就職活動を行う事でOB・OG・4年生からの就職活動の経験談など学生間の情報共有を行うため，外部からの刺激が増え友人の就職活動状況を把握できる．そのため，就職活動を適切な時期にスタートさせることができる．また先輩の情報をもとに就職活動で重要な自己分析，企業研究もできるため就職活動を円滑に行うことができる．

Job-Hunting Support System for Information Sharing in University Laboratory
Akari MIKI, Ken'ichi MINAMINO, Yuseke GOTO, Yoshikazu WATANABE,
Faculty of Software and Information Science,
Iwate Prefectural University

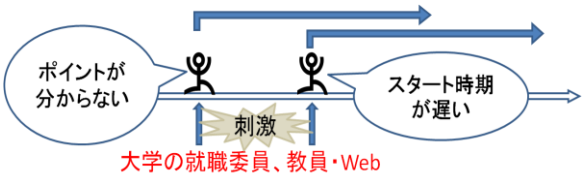

図 1　就職活動を個人で行う場合の問題

図 2　研究室における就職活動情報の共有

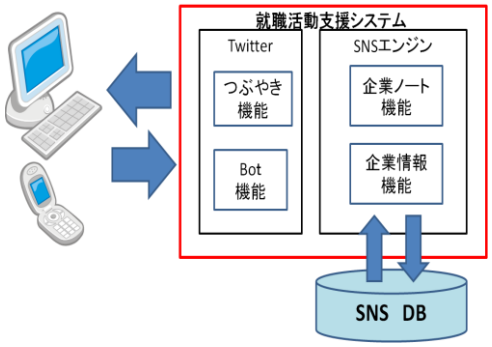

図 3　システム構成

3. 就職活動支援システム

3.1. システム開発

2章で述べた情報共有を実現するシステムを開発する．端末は研究室や自宅から就職情報を書き込むためPCと面接前や移動時間に就職情報の確認を行うため携帯電話を採用する．システムの開発にあたっては，研究室で情報共有を行い，主に活動の記録を記すために使用するSNSと現在の状況を周囲と共有するために使用するコミュニケーションツールを採用する．

先行研究には，エントリーシートを自動作成し他ユーザーと共有するシステム[1]があるが本研究では就活生自身が先輩の情報をもとに自ら作成する．また，スケジュール管理のみ行うシステム[2]もあるが本研究では研究室でのスケジュールを含めた就職活動情報の共有に主眼を置く．

2011年度卒業生や2012年度卒業生に対するアンケート，インタビュー調査により仕様を明確にし，開発を進めた．SNSはOpenPNEを，コミュニケーションツールはTwitterを利用し，開発を行った．

Copyright ©2011 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.

3.2. システムの機能

図3にシステム構成を示す．各機能は以下ように動作する．また，本研究と他の就職支援の比較は表1のようになる．

(1)企業情報機能

先輩が内定を得たときの情報を企業毎に蓄積する機能であり，選考日程，説明会の印象を5段階評価した情報，履歴書の内容，筆記試験，面接内容，エントリーシートの内容を閲覧する事ができる．これにより，企業研究，エントリーシートや面接の対策ができる．また，メッセージ機能を介してOB，OGと連絡をとることができる．

(2)企業ノート機能

就職活動を行っている学生が個人的に，(1)と同様に選考日程，説明会の印象を5段階評価した情報，履歴書の内容，筆記試験，面接内容，エントリーシートの内容を記載する事ができる．また，先輩・同級生からアドバイスをもらう事ができ，就職に関する活動中情報を蓄積できる．そして，先輩や同期生同士が現在就職選考のどの段階にいるのか把握できる．また，内定をもらった場合には，この情報が(1)の機能に登録される．

(3)Twitter機能

先輩，同期生と就職活動に関する会話，合同説明会など比較的早い段階の情報交換のツールとして使用する．本研究室の学生における就職に関するつぶやきには「#jhwat」というハッシュタグをつけつぶやく．また，bot機能により，理想的な就職活動のタイミングを自動的につぶやき，状況に応じた行動を促す．

4. 評価実験

4.1. 実験方法

本研究室の学生を対象とし，大学院生2名，大学4年6名，3年6名に使用させる．院生と4年生は就職活動に関する情報を3年生に提供し3年生はシステムを利用し就職活動を行う．

評価実験の目的は，就職活動中の学生にシステムを使用してもらうことによって就職活動にどのような効果を与えるかを明らかにすることである．評価方法はアンケートとインタビューを採用し，就職活動に対する意識調査に関するアンケートとシステム評価のアンケートの2種類を用意した．

本実験では2010年10月から就職活動中の学生に利用させた．

4.2. 実験結果

4.2.1. システムの機能

2012年度卒業生に企業ノート，企業情報に関してアンケート，インタビュー調査を行った．企業ノートはESを書く際に参考になったかという質問に対し，6人中5人が参考になったと回答した．企業情報に関しても6人中全員が役に立ったと回答した．

Twitter機能に関しては意見が活発に行われなかった．Twitterが活発に行われない要因としては，全員同じ就職セミナーに参加していること，就職活動に関係のない人にもつぶやきを見られてしまうこと，フォロワー数が少ない事が挙げられた．

表 1　他の就職支援との比較

	本研究	大学	リクナビ	マイナビ	みん就
先輩の ES を閲覧	○	△	×	×	△
OB･OG との連絡	○	△	×	×	×
ES 内容の改善	○	×	×	×	×
友人の活動状況把握	○	×	×	×	△

○：できる　△：少しできる　×：できない

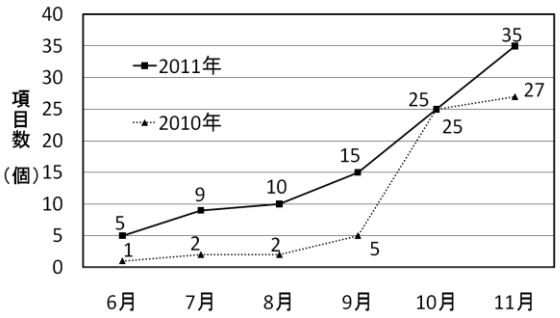

図 4　就職活動状況の比較

4.2.2. 就職活動への効果

本システムを利用していない2010年度学部卒業生4名と院生2名と，本システムを利用した2011年度学部卒業生6名を比較し，本システムの効果をアンケート，インタビューにより調査した．6月から11月までの期間で就職活動を行った項目数の合計を比較した．主な項目としては，自己分析，企業研究，筆記試験対策，学内外セミナーの参加などである．図4に結果を示す．2011年度卒業生の方が早期から就職活動を開始している．リクナビなどの就職支援サイトが10月にオープンする事から10月の時点で一度同じ数になるがその後も2011度卒業生は精力的に就職活動を行っている．

5. おわりに

本研究では，研究室における就職活動支援システムを提案した．評価実験から，企業ノート，企業情報は就職活動を行う上でモチベーションの向上に繋がること，就職活動の情報を共有できることが明らかになった．

今後の課題として，Twitter機能で意見が活発に行われなかったため，bot機能からつぶやかれる頻度を更に増やすことで発言しやすい環境をつくる必要がある．特に，大学が休暇の時期となり就職活動が個人で行われるようになる時期はつぶやき回数を増やすための工夫が必要である．

参考文献

1) 三井所健太郎,藤村直美:WEB インターフェイスによる就職活動支援システムに関する研究,情報処理学会研究報告 2009-DPS-141(17),pp.1-6(2009)

2) 山口賢治,古井陽之助,速水治夫:就職活動におけるスケジュール管理ソフトの提案,情報処理学会研究報告 2007-GN-63(21),pp.121-126(2007).

Copyright ©2011 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.